イサーフリー

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第10号 2 0 0 8 / 2

特集コラボ企画でまちへでる



ほっとパーク昆陽池



飛行中のコブハクチョウの若鳥

昆陽池のほっとな鳥

11月22日朝8時ごろの昆虫館上空はるかに白い点二つが現れました。旋回しながら降りてきたのは、今年の5月に伊丹の西池で生まれ育った若いコブハクチョウ2羽でした。親離れをして自立するための飛行だったのです。若い元気な2羽の遊泳や度々の飛行が観察されました。この冬も昆陽池公園にはたくさんの鳥が飛来し、ほっとな話題がたくさんうまれました。



コハクチョウの若鳥(写真中央)

コハクチョウ来る!

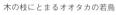
10月27日、知り合いから私のもとにほっとなニュースが飛び込んできました。コハクチョウの若鳥が26年ぶりに昆陽池に舞い降りたというのです。この日、その観察時刻と同じ時間帯に昆陽池公園にいましたが、その姿を観察出来なかったのは残念です。いてもたってもおられず、昼過ぎにはまた昆陽池公園の観察池にいって撮影することができました。

11月30日朝8時ごろ、コハクチョウは今日も元気いっぱいです。 たくさんのカモたちがいる昆陽池にも慣れ、コブハクチョウの隊 列に入れてもらったりしています。私は写真を撮るときおもわず ほほえんでしまいました。とっても人なつっこい仕草でたくさん の市民に愛され、昆陽池のほっとな可愛いアイドルなりました。

オオタカのドキドキ空中戦

オオタカの若鳥が10月末頃から連日出没しています。どうやら少なくとも2羽が野鳥の島と昆虫館周辺の森に住みついているようです。12月10日には2羽のオオタカとたくさんのカラスが空中戦を繰り広げていているのを観察しました。この日はドキドキしながら撮影しました。12月14日にも野鳥の島の中でオオタカ同士が激しいバトルを繰り広げていました。







オオタカ (写真左2羽) とカラス (写真右2羽) の空中戦

足輪のついたユリカモメ

12月8日、両足に足輪を付けたユリカモメが、目の前に止まりました。撮影しながら「キレイに撮ってね」と見つめられている気分になりました。右足に黄色い足輪が付いていて、黒文字で「SE」と刻印されています。この足輪は渡り鳥の調査研究を目的としてつけられたもので、刻印された文字情報によって個体を識別し、観察記録が蓄積されています。大阪鳥類研究グループのHP

(URL: http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/OBSG/OBSG.html) の「カラーリングを付けたユリカモメ探し」というページでこの 足輪について調べてみました。すると、この個体は2005年1月26日京都市鴨川賀茂大橋のところで標識され、その後2005年12

月24日に東京隅田川、2006年12月6日に浜甲子園、2006年12月14日に鴨川などで観察されていることがわかりました。この冬は、昆陽池で鋭気を養うのでしょうか。(堺勝重)



ユリカモメ (右足には「SE」の刻印のついた足輪がついている)

むしムシ虫眼鏡

Vol.10 昆虫界ナンバー1の変な顔?

アカハネナガウンカは、名前の通り鮮やかなオレンジ色の体と 長いはねが特徴的な昆虫です。しかし、派手な外見にも関わらず、 実際にこの虫を見た事がある方は少ないと思います。珍しい種類 ではなく、数も多いとされている昆虫なのに、何故でしょう?



答えは、「小さいから」です。体長(頭の先からお尻まで)がわずか4ミリ、はねの長さを入れても1センチです。この小ささでは、虫眼鏡がないと見過ごしてしまいそうです。実は今年の夏、僕はこの小さな虫を撮影したくて、ずっと探していました。なぜならこのアカハネナガウンカ、とにかく変で面白い顔の持ち主なのです。図鑑や知人からの情報によると、ススキやヨシの葉の裏を丁寧に探すと見つかるとの事なので、伊丹市内で探してみましたが、なかなか見つかりません。半ばあきらめかけていたところ、ぶらりとでかけた丹後半島でやっと出会う事ができました!その時は本当にうれしかったです。でも、伊丹市内でもぜったいにいるはず

なので、見つけた方は昆虫館まで連絡ください。 (奥山清市)

(奥田浦田)

<アカハネナガウンカ> 学名: Diostrombus politus

ハネナガウンカ科

分類:カメムシ目

体長:4mm

分布:本州、四国、九州



亜熱帯の温室から

Vol.10 フウリンブッソウゲ

フウリンブッソウゲはマダガスカルなどに自生するアオイ科の植物で、ハイビスカス属の野生種です。花は下向きに垂れ下がり、ゆらゆらと風鈴のように揺れています。温室では周年開花していますが、とくに元気がよいのは夏のようです。また、ハイビスカスの仲間はふつう、一日で花がしおれてしまいますが、フウリン

ブッソウゲは何日か咲き続けます。アゲハ類の訪花成績がよい、

温室の主力選 手のひとつで す。(長島聖大)



<フウリンブッソウゲ>

学名:Hibiscus schizopetalus

分類:アオイ科

ラボ企画

伊丹市昆虫館では、伊丹市内や市外の異なる分野の団体(博物館、文化系の財団 「コラボ企画」と呼んでいます)をはじめました。限られた人材や資源を活用し 広報効果など、それは当館が広く知られ、多くの人に支えられる館となるための して紹介します。

地元学習施設とのコラボ企画

きららホールは伊丹市の北部にある生涯学習施設です。このコラ ボ企画の大きな目的は、伊丹市内の地元の人々、しかし自然や昆 虫にあまり関心のない人や昆虫館へ足を運ぶ機会のない人へ、昆 虫館をアピールするためです。

コラボ企画では交換出前形式で、互いに行き来を行いました。 昆虫館からは学芸スタッフとともに生きている昆虫や教材、映画 ソフトをもっていき、1時間ぐらいの体験プログラムを2回行い ました。また、夏には地元の「伊丹の昆虫」と題した昆虫標本20 箱とパネル25枚を貸し出し、ミニ昆虫館を設営しました。

きららホールからは、併設している図書館で活動している読み 聞かせボランティアグループ「ポッポ」にきてもらい「虫の絵本 のよみきかせ」を3回行いました。

昆虫館の体験プログラムの成果は、家族で参加していただくこ とで、大人へのアピールができたことです。子どもたちは遠足で 昆虫館に来たことがあるのに、大人は来たことがない人がほとん どでした。また標本やパネルの展示も「地元にはこんなにたくさ んの虫がいるんだ」ということを多くの方に気づいてもらえたよ

うです。そして、昆虫館ではできない「よみきかせ」も、虫の本 をテーマに季節にあわせた絵本を選んだことから、参加される方 も集中して聞き、とても好評な会となりました。

どの企画もそれぞれの施設が持つ人材や資源を活かしながら、 地元に密着すること、伊丹市内の学習施設をたくさんの人に利用 してもらうことにつながるコラボ企画となりました。



伊丹市昆虫館で行われた「むしの絵本のよみきかせ」

市外博物館とのコラボ企画

市外の博物館とのコラボ企画を今年度は2つ行いました。大阪 府岸和田市のきしわだ自然資料館との交換出前講座では、お互い の館のオリジナル講座を「出前」しあいました。当館からはチョ ウやカマキリ、カブトムシ等生きた虫を連れていき、岸和田市の 子どもたちに虫に親しんでもらう講座を出前しました。きしわだ 自然資料館からは化石さがし体験や、無選別のちりめんじゃこか らカニやタツノオトシゴの幼生等様々な生き物を探す講座を出前 してもらいました。

兵庫県篠山市の篠山チルドレンズミュージアムとは互いの持ち ネタをミックスして、お互いの館で新しい講座を行いました。篠 山チルドレンズミュージアムの「ミツバチ観察とハチミツパン」 では、昆虫館からミツバチの巣箱を持っていき、巣箱の観察を行 ったあと、絞ったハチミツを皆で作った焼きたてのパンにかけて 食べました。チルドレンズミュージアムではミツバチを飼育しお 客さまに見せることはできないし、昆虫館ではパンを作って食べ るということができません。互いの館が協力することで初めて実 現した講座でした。昆虫館で行った、万華鏡づくりと虫の観察を ミックスした講座「むしむし万華鏡づくり」では、自然の産物が 作り出す独特の幾何学模様が印象的でした。このようなコラボ企 画を行う利点は、各館単独ではできなかった来館者サービスを提 供できる、離れた地域においてそれぞれの館のことを知って頂ける、 他館スタッフとの交流を図りつつ講座の内容や進め方等を勉強で きる等いろいろあります。他地域に出てイベントを行うのは労力 のかかることですが、手を変え品を変え続けていけたらいいなと 思います。



伊丹市昆虫館で行われた「化石探し体験|

まちへでる

商店街等)と、さまざまなコラボレーション企画(連携して行う企画:私たちは 連携することで広がる魅力的な企画運営、地元への浸透、そして利用者の開拓、 ひとつの戦略ともいえるかもしれません。このような新たな試みをその事例を通

コラボで街をもりあげる「鳴く虫と郷町」■



商店街の店先に吊られた虫かご

専門が異なる団体と力を合わせ、単独ではできなかった内容の企画も始めました。芸術系の活動を多く行っている伊丹市文化振興財団と、市街地にあるいくつかの商店会と協同で開催した「鳴く虫と郷町」です。これは、生きた昆虫、歴史ある町屋と商店街という会場、さらに音楽、カフェ、園芸等のイベントと組み合わせ、人々に季節感と風流な気持ちを味わっていただこうという試みです。

2回目となる今年度は9月13日~20日の7日間、伊丹の中心市街地に残る江戸時代の町屋を公開した「伊丹市立伊丹郷町館」を中心に商店街の店先や広場などを会場として開催しました。鳴く虫はスズムシ、キリギリスなどおよそ15種1000匹を江戸時代の飼育状況をイメージした竹の虫かごや壺にいれて展示しました。また、秋の七草をテーマにした講演会、コンサート、臨時のカフェ開設など、初秋を存分に満喫できるイベントも行ないました。マスコミにも大きく採りあげられ、会場やイベントは多くの人でにぎわいました。人通りが多い市街地で開催できたことは、伊丹に暮らしながらも昆虫館に来られる機会がない方々に対して昆虫と親しみ昆虫館を知っていただくという面で大きな成果があったと思います。



旧石橋家住宅の臨時カフェ

お互いの得意分野を活かして街を盛り上げるこのイベントは、 昆虫館と文化振興財団という異なる専門性を持った組織、そしていくつもの商店会がある「伊丹」だからこそできたといえるでしょう。きっかけは文化振興財団の担当者が伊丹市昆虫館の企画展「秋の鳴く虫」を見て、思いをふくらませたことでした。博物館が異業種の団体と共同してひとつの事業を行なう例は、まだ多くありません。しかしこれまでのやり方にとらわれず、多くの人の印象に残る活動をしていきたいと考えています。

このように異なる地域や分野の団体とのコラボ企画は、それぞれがもつ資源やノウハウを組み合わせる形式や、オリジナル講座の交換出前形式などさまざまです。新しい切り口の事業は、単独での企画より幅広い展開が期待されます。昆虫館からまちへ飛び出したコラボ企画は、地域・市民へのアピール、マスコミへの広報効果、新規利用者層の開拓という点で成果をあげています。このような新たなアプローチで、昆虫や自然の魅力を伝え、地域に根ざし、より多くの人々に支持してもらえる昆虫館となるよう事業運営をしています。

(角正美雪・野本康太・坂本 昇)

さいきんの

全国昆虫施設連絡協議会を開催しました 📖

伊丹市昆虫館も加盟している全国昆虫施設連絡協議会は、全国の昆虫館園で構成され、近畿圏では他に大阪の箕面公園昆虫館、奈良の橿原市昆虫館がメンバーになっています。一昨年、群馬県立ぐんま昆虫の森で行われた平成18年度大会の場で、光栄にも当館が平成19年度大会の担当施設に指命されました。伊丹での開催は、平成4年に続き2回目となります。



公開ミーティングでの発表の様子

当館のスタッフは半年以上の準備期間をかけ、いよいよ12月2日と3日の開催日を迎えました。今回は他の加盟施設と相談の上、2つの新しい試みに挑戦しました。加盟施設スタッフだけでなく一般の方も参加可能な、公開ミーティング「地域・市民と歩む昆虫施設」と、協議会に加盟する昆虫施設の広報ポスターを展示した「全国昆虫施設ポスター展」の実施です。会場の伊丹市立総合教育センターには、大勢の方がかけつけていただき、おおいに盛り上がりました。(奥山清市)



北海道から沖縄まで、22の昆虫施設のポスターを展示しました

いたこんでフォトコン表彰式と公開講評会



憧れの海野先生の言葉に、皆さん熱心に聞き入っていました

伊丹市昆虫館主催のデジタル昆虫写真コンクール、その名も「いたこんでフォトコン」には、全国から176通もの昆虫写真が集まりました。フォトコンの審査委員長をつとめていただいた昆虫写真家の海野和男先生が、自身のホームページ「小諸日記」で宣伝をしてくださったことも大きかったと考えています。

このフォトコンの表彰式と公開講評会を、12月16日にスワンホールで開催しました。力作ぞろいの応募作品に審査は難航しました。しかし当日、壇上で笑顔溢れる入賞者の皆さんの姿を見て、開催してよかったと心から思いました。また、引き続き行われた公開講評会には、フォトコン応募者以外にもたくさんの方の参加があり、大いに盛り上がりました。さて、この「いたこんでフォトコン」ですが、何年か後にまた開催したいと考えています。みなさんデジカメの腕を磨きながら、楽しみに待っていてください。

(奥山清市)

飼育室から

昆虫館生まれのコーカサスオオカブトムシ羽化しました!」



生態展示室コーナーでは、たくさんの生きた昆虫を展示してい ます。それらの昆虫は野外から採集する、専門店から購入する、 他の昆虫園や一般のお客様よりいただく等して確保します。展示 室の裏側ではそれらの虫を繁殖させたりもします。今年は世界の カブトムシ・クワガタムシとして展示していたコーカサスオオカ ブトムシ、スペキオシスシカクワガタ、ギラファノコギリクワガ タの繁殖に成功しました。どれも専門店で購入したものより小さ めですが、産まれも育ちも伊丹市昆虫館の成虫です。例えばコー カサスオオカブトムシの飼育記録を見ると2006年4月24日に採卵 し約10日でふ化した幼虫は2007年の8月に蛹となり9月22日に小 さな雄の成虫となりました。外国産のカブトムシは体も大きく幼 虫が食べる昆虫マットの量も多いようで蛹になるまでに4~5回も マットを交換しました。次の世代では少しでも立派な成虫が羽化 するよう飼育ケースの大きさやマット交換の頻度等工夫したいと 思います。 (野本康太)

アサギマダラは春から夏は北へ、秋からは南へ移動するチョウ です。伊丹周辺には5月下旬頃と9月下旬から10月にかけてみら れ、昆虫館では入り口前のバタフライガーデンや昆虫館周辺の花 へ吸蜜にやって来ます。その際、全国的に調査されているチョウ のはねに記号を書く「マーキング調査」も行います。

この秋、ガガイモ科のリュウキュウガシワという植物にアサギ マダラが産卵に来ました。これは飼育しているスジグロカバマダ ラの食草用の鉢植えを偶然屋外に出していたためです。アサギマ ダラも同じガガイモ科の植物を食草としています。ただ、まわり

にはガガイモという植物もたくさんあるのに、それには産卵して いないようでした。産んだ卵は2個だけでしたが、リュウキュウ ガシワの葉で成虫まで育ちました(飼育データは下記参照)。

このアサギマダラはチョウ温室にはあわないようで飼育が続き ません。しかし移動の時期にあわせて採卵できれば、幼虫やさな ぎなどの展示も可能になります。季節や昆虫の生態をうまく利用し、 来館者の方へのタイムリーな展示の意味を再確認したアサギマダ ラの飼育でした。(角正美雪)



卵(ふ化日A:10月25日、B:10月28日)



アサギマダラの終齢幼虫





さなぎ(蛹化日A:11月13日、B:11月17日) 成虫(羽化日A:11月25日半、B:11月30日半 ※写直は羽仆個休ではありません)



でました!台湾で「昆蟲的大便」

前々号でおしらせした「むしのうんこ」の台湾版が出版され、この台湾版が出版され、ストルを見てびっくり!中身は同じですが、中国語の虫の名前なりませる。台湾に行かれた際は本屋さんをのぞいてみてください。もちろん昆虫館でも販売します(1000円程度の予定)。(角正美雪)

祝!3度目の矢島賞



むしのうんこ台湾版「昆蟲的大便」

一年間何度でも入館OK!昆虫館パスポートはいかが?

購入日から1年間、何度でも昆虫館に入館できる「昆虫館パスポート」は昆虫館受付で販売中です。今年はニジイロクワガタがデザインされています。昨年度から継続して利用される方は、申し込み時に古いパスポートをお持ちいただければ手続きが簡単になります。友の会と合わせて

申し込めば昆虫館内の行事もより 参加しやすくなります。ぜひご利 用ください。(長島聖大)

大人	中高生	3才~小学生
1500円	500円	300円



伊丹市昆虫館友の会 会員募集中です

昆虫館友の会は今年で5年目となりました。友の会はみんなで昆陽池の 生き物をしらべたり、自然観察ハイキングに出かけたりと、昆虫館と自

然をもっと楽しめるイベントがいっぱいです。会員の期間は1月~12月の1年間、会費は大人1000円、子ども500円、家族会員(3人まで)は1500円となっています。会員になると昆虫館売店の昆虫標本作製・採集グッズが1割引で買える特典もあります。はっきり言って、お得です!詳しくは昆虫館受付まで。



(URL: http://itakon.fc2web.com/) (長鳥聖大)



猪名川河川敷での観察会

大人会員 1000円

子ども会員 500円 (小学生以上)



もよおしあんない

きたいと思います。(長島聖大)

3 9日(日) 昆虫折り紙アート講座

15日(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」

2007年12月2・3日に伊丹で開催された全国昆虫施設連絡

協議会の平成19年度大会で、当館と箕面公園昆虫館および 橿原市昆虫館の共同企画「3館シールラリー」が矢島賞(奨

励賞)を受賞しました。昆虫施設の発展に寄与した者に与え

られる本賞は、協議会顧問の矢島稔氏のご厚情により設けら

れた栄誉ある賞です。当館の受賞は18年度に続き2年連続3

度目です。「3館ラリー」企画は今年も継続して行う予定です。 皆様のご愛顧に感謝して、今後もよりよい昆虫館を作ってい

23日(日) うらがわ探検

5日(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」

13日(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制

20日(日) 春のはらっぱにでかけよう! 予約制

5月 10日(土) ヤマ (2回

10日(土) ヤママユ飼育講習会

(2回連続講座①飼い方) 予約制

11日(日) ミツバチ観察会

(3回連続講座①花粉団子)予約制

11日(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制

6_用

1日(日) ミツバチ観察会

(3回連続講座②はちみつ)予約制

8日(日) アゲハチョウをそだてよう! 予約制

15日(日) ハチミツカフェ

7月

19日(土) セミの羽化観察会 予約制

26日(土) 昆虫標本の作り方講座 予約制

8=

10日(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制

16日(土) 夏休みむしむし相談室

17日(日) むしむし万華鏡づくり

17日(日) 伊丹市昆虫館友の会出展

特別展

7/16~8/31 夏休みむしむし相談室(仮称)

企画展

1/30~ 4 / 7 むしぐるみであそぼう!~きぐるみ・ぬいぐるみ~

4/9~7/7 ちょうのくらし

プチ展示

5/14~6/16 むしのうんこ2 6/25~10/13 伊丹の昆虫

講習会・観察会の申込方法〈わしい内容は… 申し込むには…

・伊丹市内に在住の方

「広報伊丹」をごらんください。

・伊丹市外に在住の方

電話でお問い合わせください。

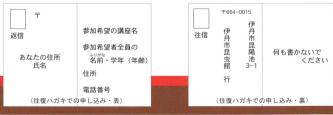
「広報伊丹」は伊丹市のホームページからごらんになれます。

(講習会・観察会の実施日の

約1ヶ月~2週間前までにお問い合わせください)。

* 広報伊丹は実施日の約1ヶ月前に掲載します。 電話でのお問い合わせは掲載以降に案内いたします。

- ・往復ハガキ、FAX、Eメール (携帯不可) でおこなえます (締切日必着)。行事の名前、参加する全ての方の Eメールアドレスなど記入し、受付期間内にお送り 下さい。
- ・申込多数の場合は抽選になります。
- ・往復ハガキの宛先住所
- 〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールの宛先アドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp



編集スタッフより

最近のデジタルカメラの進歩はめざましいものがありますね。ただ道具が良くても腕を磨かなくては・・と思っています。 (奥山) 今年の冬は雪が多いですね、お出かけする日に限って雪が積もるわたくし。やっぱり・・・ (長島)

次回 (第11号) 発行は、2008 (平成20) 年7月ごろの予定です。

表紙写真:「鳴く虫と郷町」の展示 (2006年9月、旧石橋家住宅) 撮影:坂本 昇

いたこんニュース 第10号 Vol.5 No.2 (通巻10号) 2008 (平成20) 年 2 月発行

発 行 伊丹市昆虫館

〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内 TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306 URL: http://www.itakon.com/

E-mail:ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

編集 集 奥山清市・長島聖大 デザイン原案 pico*pictuers 印 刷 丘田印刷丁芸株式会社